

1. 背景

国道365号析ノ木峠道路は、令和4年8月の大雨により被災したほか、約5カ月に及ぶ冬期通行止や異常気象時通行規制区間があるなど、課題が多い区間となっています。

また、福井・滋賀の県境をまたぐ道路であることに加え、脆弱な地質により難工事が想定されるなど、地質による技術的な課題が多く、両県による効率的な施工が困難であることが想定されます。

福井県・滋賀県の両県では、これまで析ノ木峠道路に関する事業計画について検討を進めてきたところであり、今回、有識者を交えて技術検討委員会を開催し、上記課題について、検討しました。

2. 技術検討委員会 委員名簿

〈委員〉(◎:委員長)

- ◎荒井 克彦 福井大学名誉教授
- 山本 博文 福井大学教授
- 福井県 土木部 道路建設課
- 滋賀県 土木交通部 道路整備課
- 福井県 丹南土木事務所
- 滋賀県 長浜土木事務所 木之本支所



3. 検討結果

3-1 日時 : 令和5年3月9日(木) 14:30~16:00

3-2 場所 : 福井県福井土木事務所(福井県福井市城東)

3-3 議事

- (1) 現道の状況と課題および事業計画
- (2) 計画ルート周辺の地質状況と技術的課題
- (3) 計画ルートの妥当性と計画・施工上の課題

3-4 検討結果・まとめ

- 現道の課題を確認し、冬期通行止、異常気象時通行規制区間を解消することにより、年間を通じて安全かつ円滑な交通を確保するとともに、県境ネットワーク・代替路として大きな役割を担うトンネル計画について妥当であると評価された。
- 県境をまたぐトンネル計画であることに加え、脆弱な地質により技術的課題が多く、難工事が想定されることを確認した。
- 難工事が想定されることを踏まえ、施工時の不測の事態に対し、高度な技術力や迅速かつ的確な判断などの施工管理能力が必要であることを確認した。
- 今後の詳細調査や適切な対策工法の立案が重要であり、排水対策や施工上の管理に十分注意したうえで施工に臨む必要があることを確認した。